

1 調査名称：さいたま市都市・地域総合交通戦略策定調査

2 調査主体：さいたま市

3 調査圏域：さいたま市街地

4 調査期間：平成21年度～平成22年度

5 調査概要：

さいたま市総合都市交通戦略策定・新交通システム等検討調査は、都市交通を取り巻く環境の変化や交通サービスへのニーズの高まりを踏まえ、「さいたま市総合都市交通体系マスタープラン（さいたま SMART プラン）」に基づく、本市にふさわしい交通体系を目指し、概ね5～10年後に達成すべき目標を定め、実現に必要なハード及びソフト施策を組み合わせた「総合的な交通戦略」を策定し、実効性の高い交通施策を展開するため実施するものである。

また、大宮駅周辺地域交通戦略検討業務は、平成20年度より検討を進めている「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」と平行して、大宮駅周辺地域が抱えている交通の諸課題について、大宮駅周辺の目指すべき将来像の実現に向けて、総合的な交通戦略を立案することにより、地域の交通課題の解決を図ることを目的に実施するものである。なお、本業務は、地域のまちづくり計画との整合を図りながら、全市的な交通戦略の中で先行事例として反映していくものとする。

## I 調査概要

1－A 調査名：さいたま市総合都市交通戦略策定・新交通システム等検討調査

2－A 報告書目次

### 序章

1. はじめに
2. さいたま市都市交通戦略の位置づけ
3. 都市交通戦略の進め方
4. 関連する上位計画・過年度調査

### 第I章 都市交通戦略

1. さいたま市の現状と課題
2. 基本目標と方針
3. 目標達成に向けた成果指標（アウトカム指標）

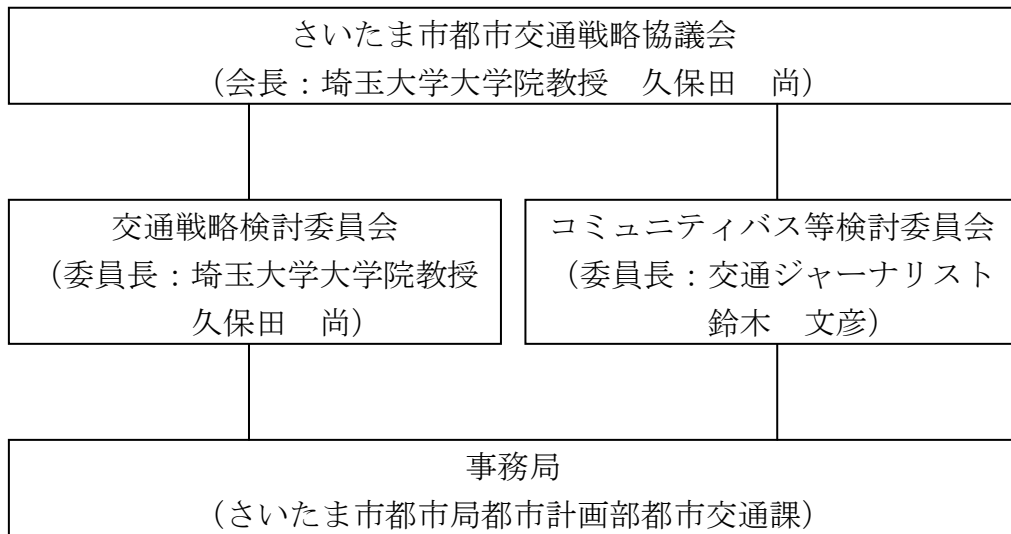
### 第II章 コミュニティバス等導入検討

1. さいたま市における路線バス・コミュニティバスの現状と課題
2. コミュニティバス等導入ガイドライン（素案）
3. モデル実証実験の実施概要

### 第III章 まとめ

### 第IV章 巻末参考資料

3-A 調査体制



## 4-A 委員会名簿等

さいたま市都市交通戦略協議会 委員名簿 (平成22年3月31日現在)

	所属	役職等	氏名
会 長	埼玉大学大学院理工学研究科	教 授	久保田 尚
副 会 長	埼玉大学大学院理工学研究科	准 教 授	坂本 邦宏
委 員	交通ジャーナリスト		鈴木 文彦
委 員	さいたま市自治会連合会	会 長	伊藤 巖
委 員	さいたま市老人クラブ連合会	会 長	平野 初夫
委 員	社会福祉法人さいたま市社会福祉協議会	事務局長	大嶋 恭一
委 員	さいたま市交通安全保護者の会(母の会)	会 長	木村 通恵
委 員	さいたま商工会議所	理 事	久保 徳次
委 員	(社)さいたま観光コンベンションビューロー	事務局長	菅原 敏明
委 員	東日本旅客鉄道(株)大宮支社企画室	室 長	大森 郁雄
委 員	東武鉄道(株)鉄道事業本部計画管理部	課 長	羽生 峰夫
委 員	(社)埼玉県バス協会	専務理事	鶴岡 洋
委 員	埼玉県タクシー協会	専務理事	高原 昭
委 員	首都高速道路(株)計画・環境部	課 長	今岡 和也
委 員	国土交通省関東地方整備局建政部都市整備課	課 長	赤星健太郎
委 員	国土交通省関東地方整備局道路部道路計画第二課	課 長	柳谷 哲
委 員	国土交通省関東運輸局自動車交通部旅客第一課	課 長	宮沢 正知
委 員	国土交通省関東運輸局企画観光部交通企画課	課 長	松平 健輔
委 員	埼玉県企画財政部交通政策課	課 長	西村 大司
委 員	埼玉県県土整備部道路政策課	課 長	小島 一男
委 員	埼玉県警察本部交通部交通規制課	課 長	赤坂 保雄
委 員	さいたま市政策局政策企画部	部 長	鶴田 修
委 員	さいたま市都市局都市計画部	部 長	元井 典雄
委 員	さいたま市建設局土木部	部 長	松澤 正巳

## 交通戦略検討委員会 委員名簿

(平成22年3月31日現在)

	所属	役職等	氏名
委員長	埼玉大学大学院理工学研究科	教授	久保田 尚
副委員長	埼玉大学大学院理工学研究科	准教授	坂本 邦宏
委員	東日本旅客鉄道(株)大宮支社企画室企画調整課	課長	傳法谷善仁
委員	東武鉄道(株)鉄道事業本部計画管理部	課長	羽生 峰夫
委員	埼玉新都市交通(株)	代表取締役常務	外山 竹治
委員	(社)埼玉県バス協会	専務理事	鶴岡 洋
委員	国際興業(株)運輸事業部業務課	課長	高島 俊和
委員	東武バスウエスト(株)運輸統括部業務課	課長	大久保雄二
委員	西武バス(株)経営企画部運輸計画課兼経営企画課	課長	関根 康洋
委員	埼玉県タクシー協会	専務理事	高原 昭
委員	国土交通省関東地方整備局建政部都市整備課	課長	赤星健太郎
委員	国土交通省関東運輸局企画観光部交通企画課	課長	松平 健輔
委員	国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所計画課	課長	後閑 浩幸
委員	国土交通省関東運輸局埼玉運輸支局	首席運輸企画専門官	池田 豊
委員	埼玉県警察本部交通部交通規制課	専門官	松本 久司
委員	さいたま市政策局政策企画部地下鉄7号線延伸対策課	参事兼課長	林 健蔵
委員	さいたま市都市局都市計画部都市計画課	参事兼課長	関 成樹
委員	さいたま市都市局都市計画部都市施設課	課長	瀧 寿雄
委員	さいたま市建設局土木部	参事	大峠 利則
委員	さいたま市建設局土木部道路環境課	課長	長澤不二夫
委員	さいたま市建設局土木部道路計画課	課長	佐々木七郎

## コミュニティバス等検討委員会 委員名簿 (平成22年3月31日現在)

	所属	役職等	氏名
委員長	交通ジャーナリスト		鈴木 文彦
委員	西区自治会連合会	会長	土橋 章次
委員	北区自治会連合会	会長	伊藤 巖
委員	大宮区自治会連合会	会長	橋本 昭司
委員	見沼区自治会連合会	会長	山田 長吉
委員	中央区自治会連合会	会長	中村みよ子
委員	桜区自治会連合会	会長	中村 勝美
委員	浦和区自治会連合会	会長	坂本 和哉
委員	南区自治会連合会	会長	親松 高穂
委員	緑区自治会連合会	会長	西山 鶴生
委員	岩槻区自治会連合会	会長	田中 岑夫
委員	(社)埼玉県バス協会	専務理事	鶴岡 洋
委員	国際興業(株)運輸事業部業務課	課長	高島 俊和
委員	東武バスウエスト(株)運輸統括部業務課	課長	大久保雄二
委員	西武バス(株)経営企画部運輸計画課兼経営企画課	課長	関根 康洋
委員	朝日自動車(株)営業部	部次長	下山 幸明
委員	埼玉県タクシー協会	事務局長	千田 吉雄
委員	東日本旅客鉄道(株)大宮支社企画室企画調整課	課長	傳法谷善仁
委員	国土交通省関東地方整備局建政部都市整備課	課長	赤星健太郎
委員	国土交通省関東運輸局自動車交通部旅客第一課	課長	宮沢 正知
委員	国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所計画課	課長	後閑 浩幸
委員	国土交通省関東運輸局埼玉運輸支局	首席運輸企画専門官	池田 豊
委員	埼玉県警察本部交通部交通規制課	専門官	松本 久司
委員	さいたま市建設局土木部	参事	大峠 利則
委員	さいたま市建設局土木部道路環境課	参事兼課長	長澤不二夫

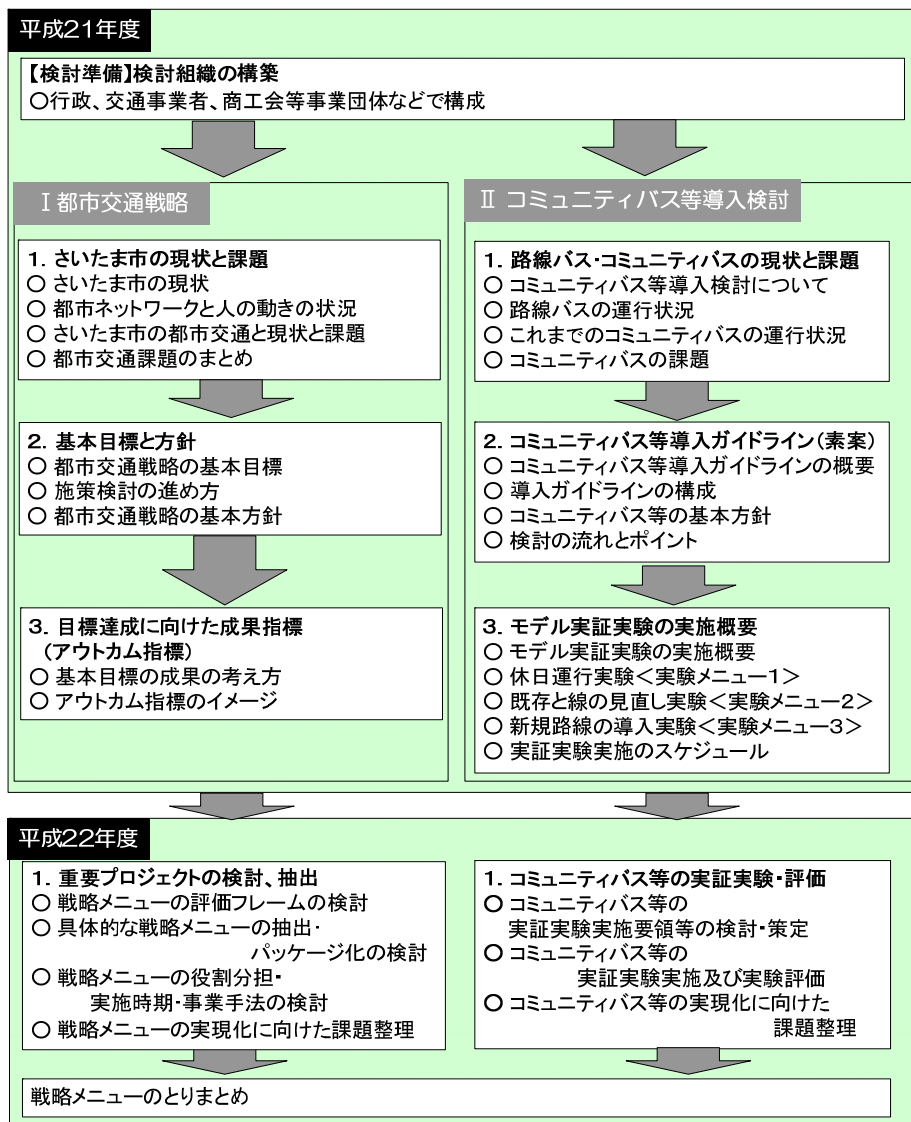
## II 調査成果

### 1－A 調査目的

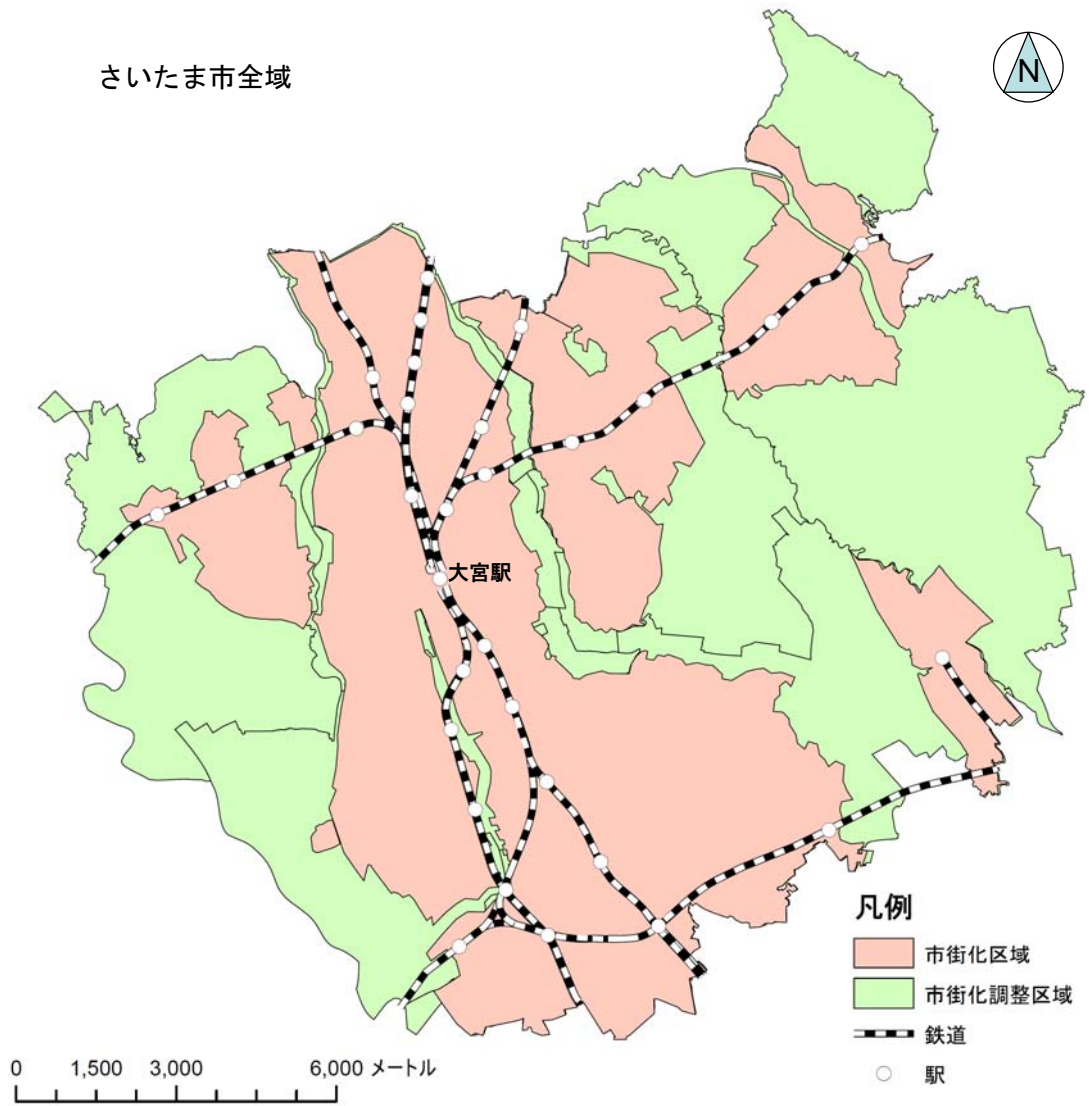
近年、少子高齢社会の進展や地球規模の環境問題への対応など、都市交通を取り巻く環境も大きく変わりつつあるなかで、総合的な交通体系づくりを進めるためには、各交通施策を一体的に捉え、戦略的に推進することが必要である。

本調査は、上位計画である「さいたま市総合振興計画」の将来都市像実現に向け、本市の総合都市交通の基本的な考え方や方針を示した「さいたま市総合都市交通体系マスタープラン（SMART プラン）」の短・中期に取り組む実行計画となる、重点的かつ効率的な施策展開を「都市交通戦略」として策定することを目的としている。

### 2－A 調査フロー



3-A 調査圏域図





## 4－A 調査成果

### 4－A－1 さいたま市の現状と課題

本市の都市の特性・現状から将来懸念される問題点を抽出し、都市交通課題を整理した。

#### 【都市の特性・現状】

都市構造	<ul style="list-style-type: none"><li>○合併に伴う2つの都心と4つの副都心からなる多核連携型構造</li><li>○南北方向の鉄道網を軸に都心や市街地が発達、東西へ拡大</li><li>○居住地の分散・拡大により東西方向に都市化が進展</li></ul>
人口・高齢化	<ul style="list-style-type: none"><li>○人口は、都市交通戦略の対象年次である今後10年程度の間、緩やかに増加傾向が続くが、その後は減少に転じるものと予測</li><li>○高齢化は、全国平均よりも10年程度遅れて進展</li><li>○人口密度の高い地域は、南北の都市ゾーンを中心に東西方向の市街地ゾーンに拡大</li><li>○市内の高齢化は、人口密度の高い南北方面より密度の低い市街化調整区域縁部に点在</li></ul>
交通網	<ul style="list-style-type: none"><li>○広域・都心間は、南北方向は鉄道、東西方向は路線バス・クルマが中心</li><li>○都心間や市内の移動は、都心地区の駅を中心とした路線バス</li><li>○路線バスを補完するコミュニティバスは、交通空白・不便地区の一部をカバー（市内6区で運行）</li></ul>
人の動き	<ul style="list-style-type: none"><li>○人の移動の総量が増加、なかでも高齢者の移動量が増加</li><li>○依然、東京方面へトリップが集中、市内では都心地区へ交通が集中</li></ul>
交通状況	<ul style="list-style-type: none"><li>○鉄道利用者は増加、バス利用者は微増、自転車利用割合は他市に比べ高い</li><li>○東西方面から南北方向の鉄道駅へのアクセスニーズが高い</li></ul>

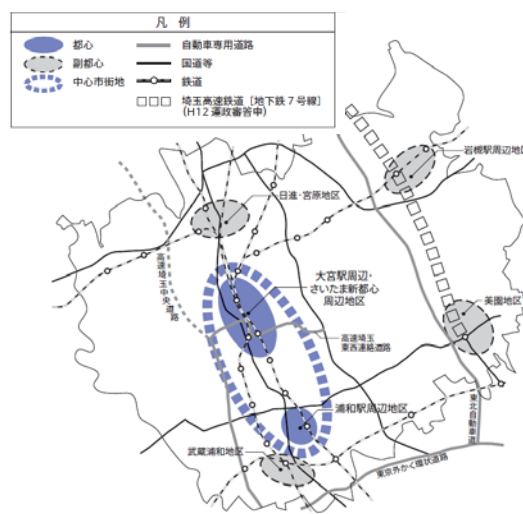


図 都市構造

出典：さいたま市総合振興計画

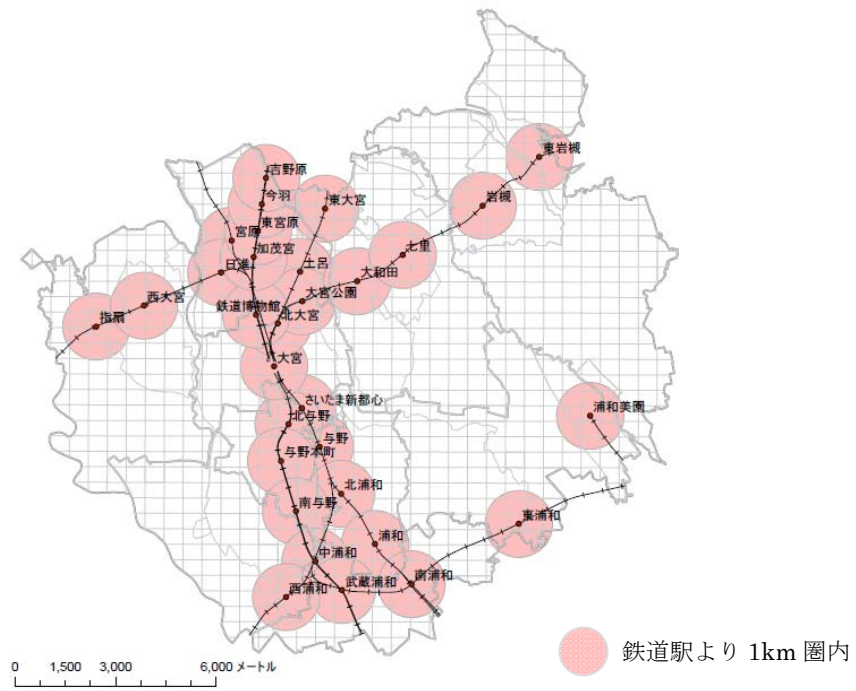


図 鉄道の整備状況とサービス圏(1km)

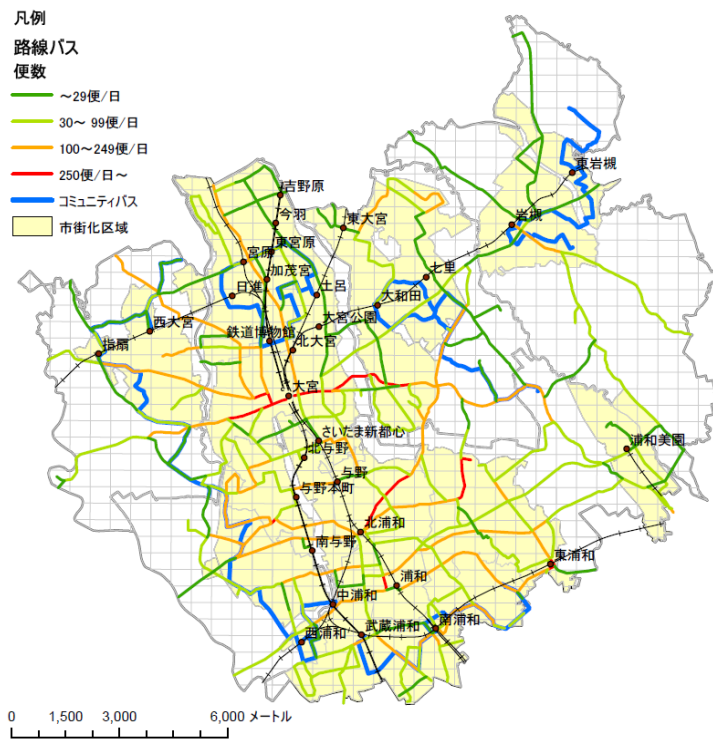
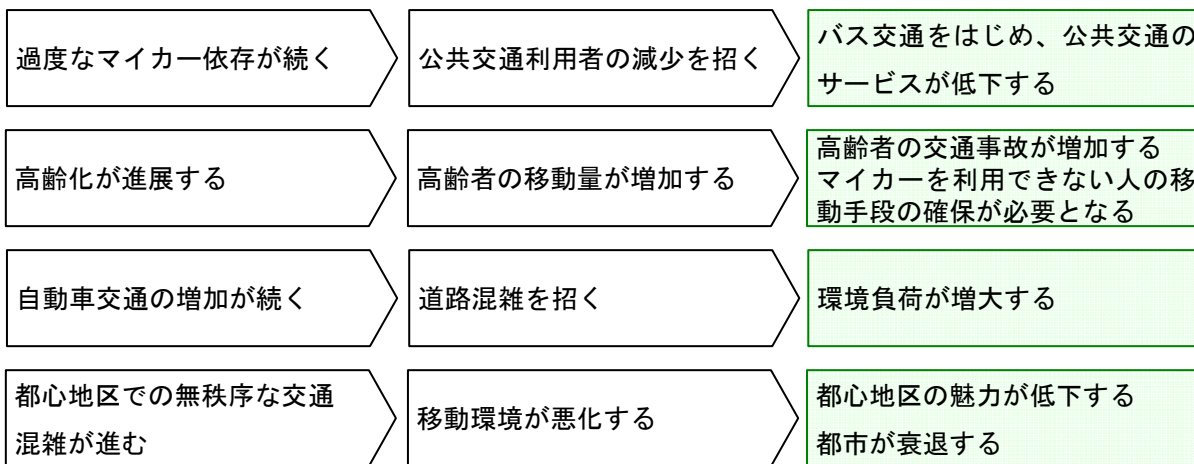


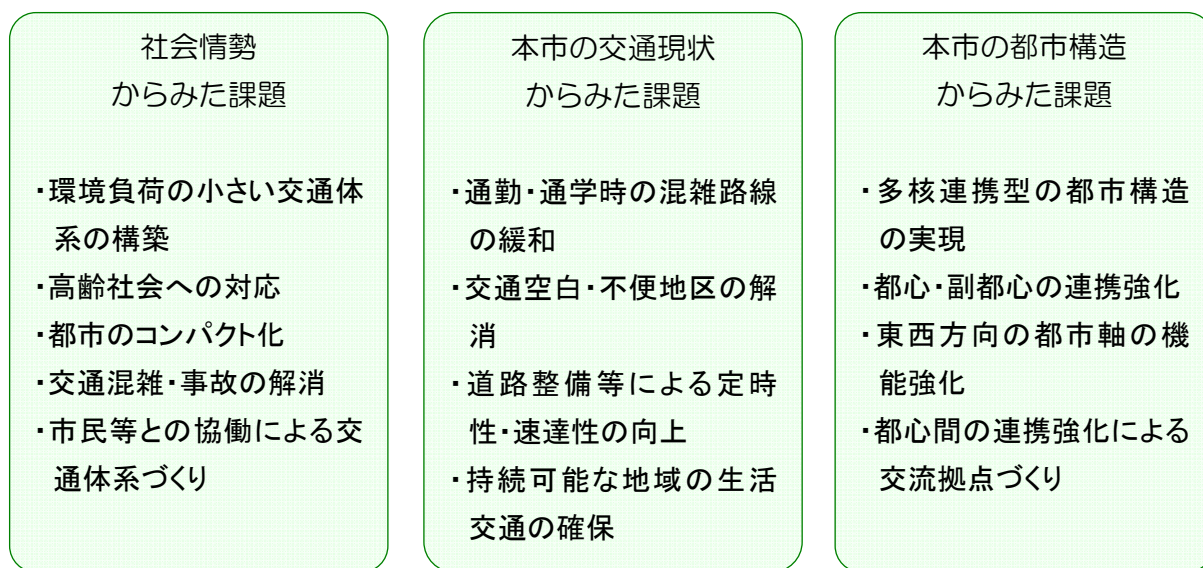
図 路線バスの運行便数

【将来懸念される問題点】

現状 .....> 将来

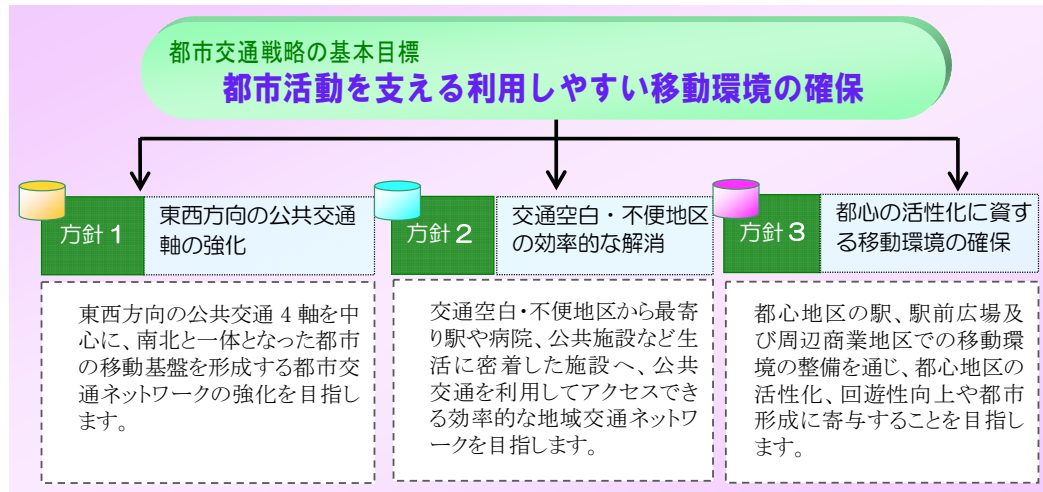


【都市交通課題】



#### 4-A-2 基本目標と方針

都市交通戦略の基本方針の考え方として、以下のとおり目指すべき方向性を示すとともに、各方針の中心となる重要プロジェクトを整理した。

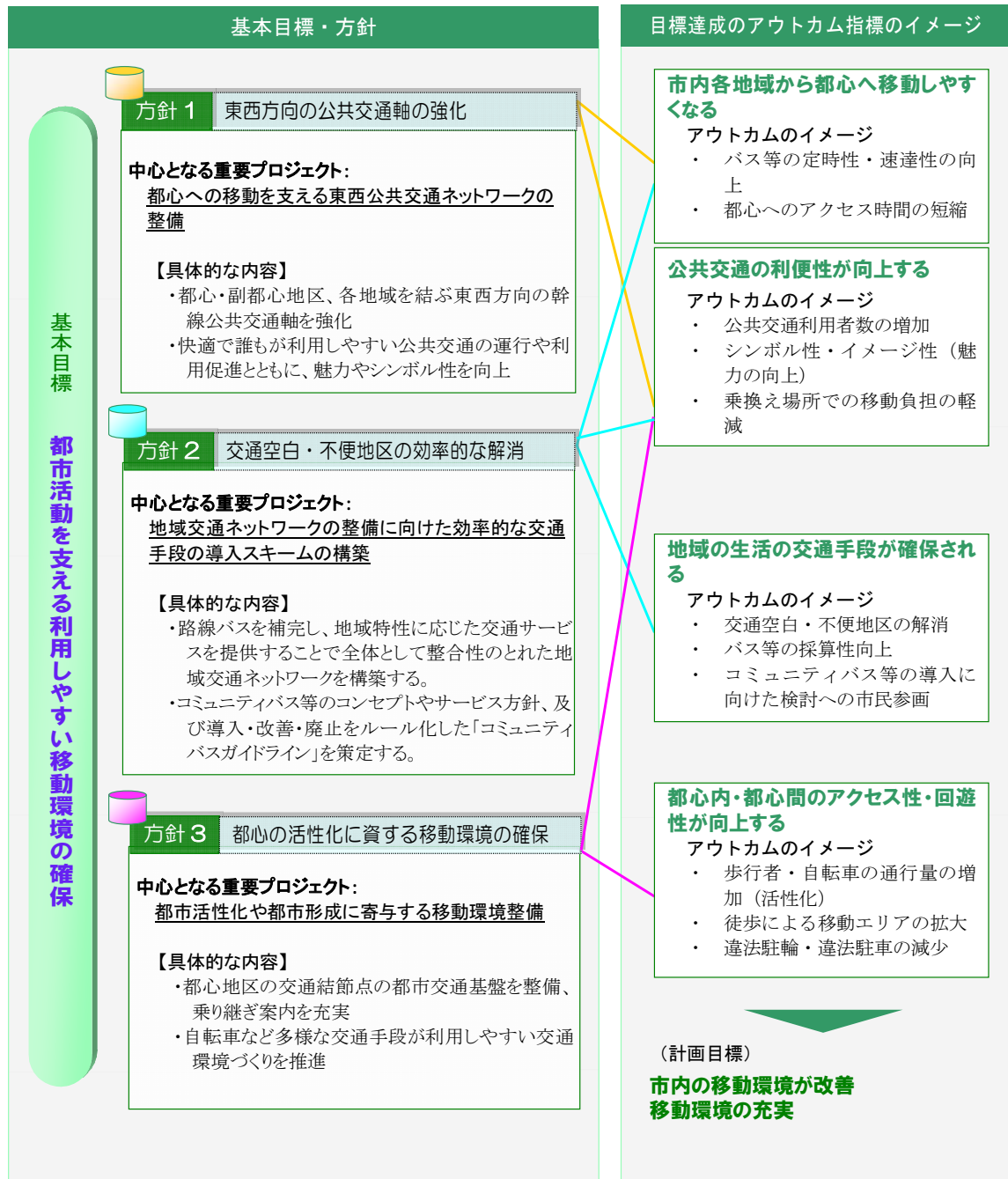


〔基本方針の中心となる重要プロジェクト〕

<b>方針1</b> 東西方向の公共交通軸の強化
<b>都心への移動を支える交通ネットワークの整備</b> <ul style="list-style-type: none"><li>都心・副都心地区、各地域を結ぶ東西方向の幹線公共交通4軸を中心に強化します。</li><li>快適で誰もが利用しやすい公共交通の運行や利用促進とともに、魅力やシンボル性を高めます。</li></ul>
<b>方針2</b> 交通空白・不便地区の効率的な解消
<b>効率的な運行検討・整備スキームの構築</b> <b>地域の交通ネットワークの整備</b> <ul style="list-style-type: none"><li>市民の足として持続可能な運行ができるよう、コミュニティバス等のガイドラインを策定し、各地域で市民主体による運行路線を発意できるシステムを構築します。</li><li>路線バスを補完する位置づけで、地域特性に応じた交通サービスを提供することにより、全体として整合性のとれた地域交通ネットワークを構築します。</li></ul>
<b>方針3</b> 都心の活性化に資する移動環境の確保
<b>都心活性化や都市形成に寄与する移動環境整備</b> <ul style="list-style-type: none"><li>アクセス性や回遊性の向上を目的とした都心地区の交通結節点における都市交通基盤の整備や運用の改善、ターミナルでの乗り継ぎ等の情報案内を充実します。</li><li>中心市街地の活性化や回遊性の向上を目的とした徒歩・自転車など多様な交通手段が利用しやすい交通環境づくりを進めます。</li></ul>

#### 4-A-3 目標達成に向けた成果指標（アウトカム指標）

都市交通戦略における基本目標・方針と、選定条件に基づき目標の達成度を示すアウトカム指標のイメージとの関連性を整理した。



4-A-4 考えられる交通戦略メニュー(案)のイメージ



## I 調査概要

1－B 調査名：大宮駅周辺地域交通戦略検討業務

2－B 報告書目次

I. 業務概要

II. 大宮駅周辺地域における特定課題の検討

1. 道路ネットワークの基本的な検討
2. おもてなし歩行エリアに係る基本的な検討
3. 交通結節機能強化に係る基本的な検討
4. 総合的な交通戦略（モビリティマネジメント等）の検討

III. 大宮駅周辺地域交通戦略

1. 大宮駅周辺地域交通戦略の位置づけ
2. 大宮駅周辺地域交通戦略
3. 事業プログラムの検討

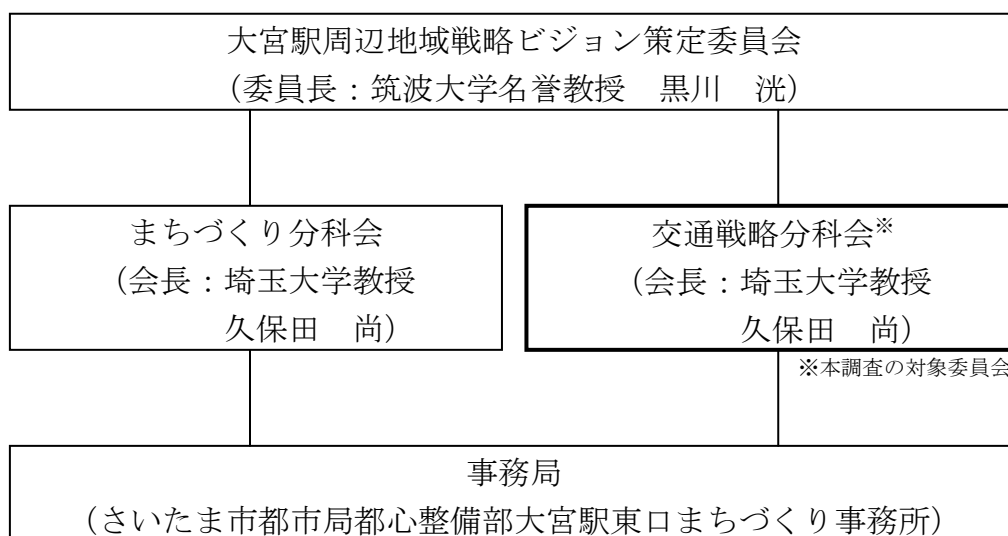
IV. 目標設定と評価指標の検討

1. 概算事業費の算出
2. 評価指標と目標設定
3. 進行管理とモニタリング

V. 今後の進め方

VI. 大宮駅周辺地域戦略ビジョン交通戦略分科会の開催結果

## 3-B 調査体制



## 4-B 委員会名簿等

## 交通戦略分科会 委員名簿

(平成22年3月31日現在)

	所属	役職等	氏名
会 長	埼玉大学	教 授	久保田 尚
副 会 長	埼玉大学	准 教 授	坂本 邦宏
委 員	埼玉県警察本部交通部交通規制課	道路協議専門官	松本 久司
委 員	大宮警察署交通課	課 長	齋藤 和洋
委 員	さいたま市交通企画課	課 長	遠山 敏夫
委 員	さいたま市都市施設課	課 長	瀧 寿雄
委 員	さいたま市道路環境課	課 長	長澤不二夫
委 員	さいたま市道路計画課	課 長	佐々木七郎
委 員	さいたま市大宮駅東口まちづくり事務所	所 長	中野 英明
委 員	さいたま市大宮駅西口まちづくり事務所	所 長	伊東 信悦



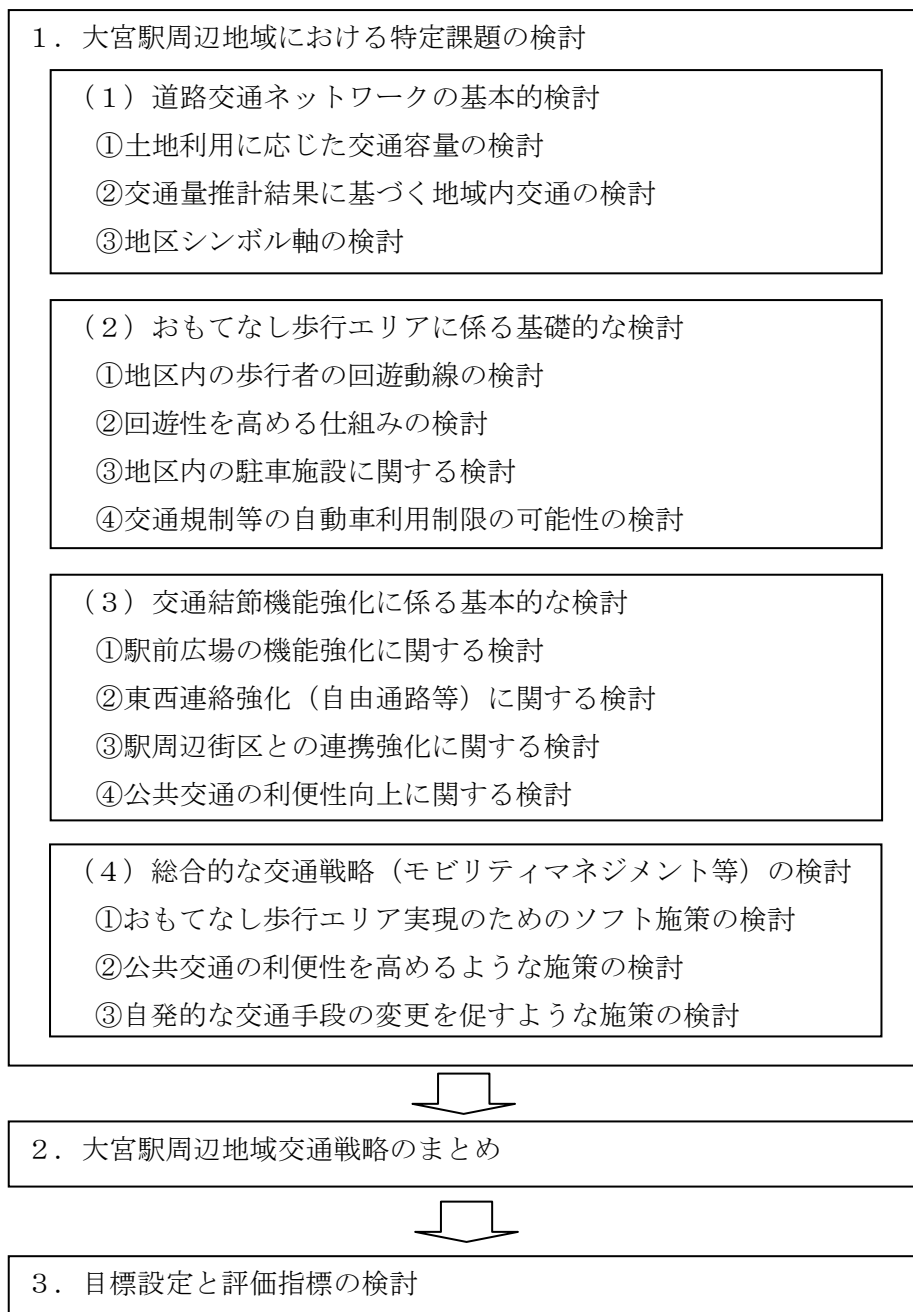
## II 調査成果

### 1－B 調査目的

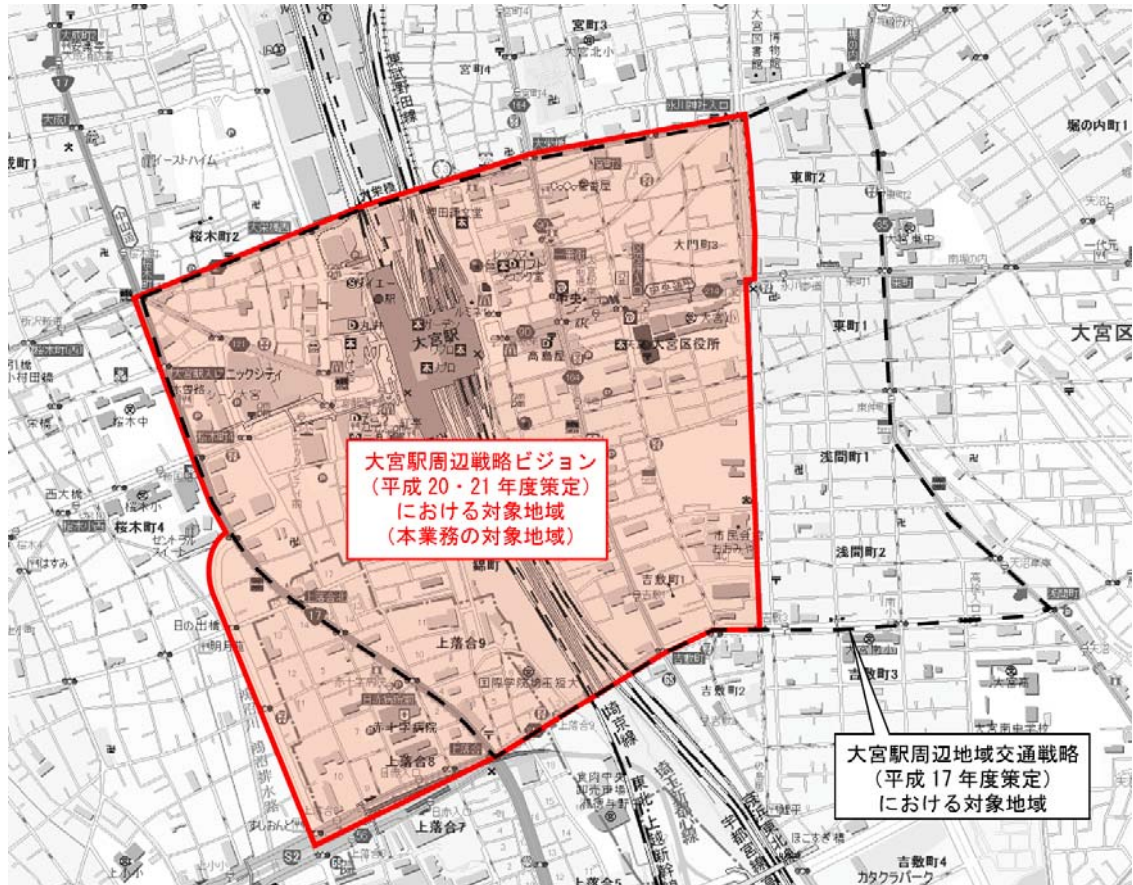
本業務は、平成20年度から検討を進めている「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」と並行して、大宮駅周辺地域が抱えている交通の諸課題について検討したものである。

大宮駅周辺地区の目指すべき将来像の実現のため、総合的な交通戦略を立案することにより、地域の交通課題の解決を図ることを目的とする。

### 2－B 調査フロー



3-B 調査圏域図



## 4－B 調査成果

### 4－B－1 大宮駅周辺地域まちづくりの将来イメージ

大宮駅周辺地域戦略ビジョンでは、大宮駅周辺地域の将来像「東日本の顔となるまち」「おもてなし、あふれるまち」「氷川の杜、継ぐまち」をふまえて、どのようなまちづくりを進めるかをワークショップで検討した結果から、「大宮駅周辺地域まちづくりの将来イメージ」を下記のとおり構築している。本戦略においてもこれを踏襲する。

#### **おもてなし都心ゾーン** (既存機能の高次化と広域的機能の集積)

##### ○ターミナル街区／駅および駅前ゾーン

- ▶ 大宮駅とその周辺街区が一体となり、交通の要衝、街の玄関としての機能強化を図る。

##### ○おもてなし機能集積ゾーン

- ▶ 首都圏と北関東・東北・上信越・北陸地方との玄関口に位置する好立地なポテンシャルを一層高めるため、広域的業務機能やコンgres機能などを誘導し、高次業務活動を展開する。
- ▶ 駅直近の利便性を活かし、百貨店や複合商業施設など高度な商業から、個店が立ち並ぶ路地界隈を活かした個性豊かな街並み商業など、多様な商業機能を集積させる。

##### ○駅周辺複合市街地ゾーン

- ▶ ターミナル街区およびおもてなし機能集積ゾーンを支え、かつ大宮都心生活を豊かに享受する住・商・業機能が適切に複合する市街地を形成する。
- ▶ 商業やオフィスとの複合居住、若者層や高齢者層、ファミリー層などの共住、路地型商業と共存する街なか居住など、街区特性に応じた多様な居住環境をサポートする機能を充実する。

#### **シンボル都市軸** (街の顔の創出と都市観光の推進)

##### ○東西シンボル都市軸 (三橋中央通線～自由通路～大宮中央通線)

- ▶ 東西市街地の往来など都心での様々な活動を支える活動軸となるとともに、駅から街への眺望を確保しつつ、おもてなし都心にふさわしいまちなみ創出のための沿道整備などを行う。
- ▶ 広域的な緑のシンボル軸である荒川、見沼田圃をつなぐ緑のシンボルロードとして整備する。

##### ○氷川参道歴史文化軸 (盆栽村～氷川神社・大宮公園～氷川参道～一の鳥居～けやきひろば)

- ▶ 参道に象徴される歴史や文化を次世代に継承するため、沿道環境の保全と適切な空間活用を図る。

#### **おもてなし体感空間** (おもてなしの空間や環境の整備)

##### ○おもてなし歩行エリア

- ▶ 初めて大宮を訪れた人も、通勤や通学で毎日通っている人も、大宮に住む人も、街を楽しみながら、飽きずに快適に、安全に安心して過ごせる歩行空間を面的に創出する。

○おもてなしひろば

➤ 都心における多様な活動を促進するための交通結節機能や街情報発信機能、都市の安全性や環境向上に寄与する防災機能や地域省エネ機能などを持つひろばを創出する。

- \* 駅前ひろば : 広域からの来街者も日常利用者も共通して誇れる街の顔を創出する。
- \* まちなかひろば : 駅前からまちなかに人を惹きつけ、駅前の賑わいを広げる。
- \* 杜のひろば : 氷川参道散策の立ち寄りスポットとして都心全体の回遊性を高める。
- \* ミニひろば : 人々の憩いの場として高密度な市街地の環境を改善する。

**都心活動を支える交通基盤** (既定都市計画道路の整備の推進)

○外周道路

➤ 都心を形成する広域幹線道路を強化し、通過交通と地域アクセス交通との分離によって、都心部の渋滞の解消と秩序ある交通環境を維持する。

○地域内幹線道路

おもてなし歩行エリアの外周を形成する幹線道路を整備し、公共交通のスムーズな走行による街へのアクセシビリティ改善、荷捌き等の業務活動の円滑化等を図る。

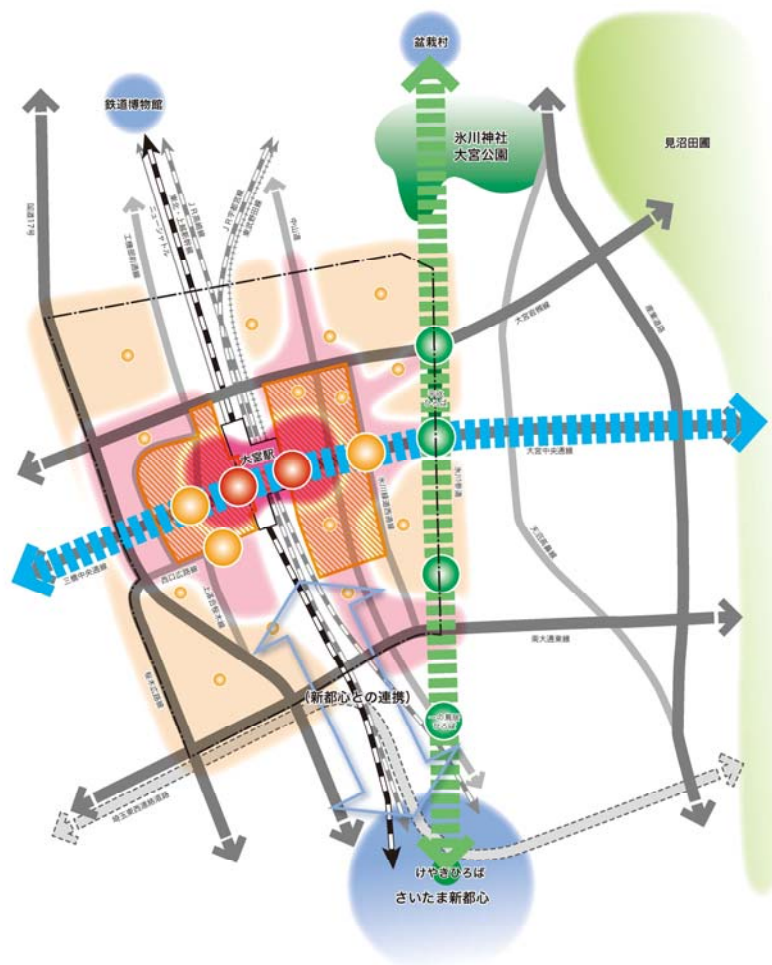


図 大宮駅周辺地域まちづくりの将来イメージ

## 4-B-2 交通戦略の体系

大宮駅周辺地域戦略ビジョンにおける3つの交通戦略を前提に、「大宮駅周辺地区交通計画」(平成18年3月)における交通施策の体系を次のように再構築する。



図 大宮駅周辺地域交通戦略の施策体系(案)

### 4-B-3 重点施策と推進プログラム

大宮駅周辺地域交通戦略の上位計画にあたる「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」における4つの優先的に取り組むべきプロジェクトの一つで、交通施策を中心に展開していく必要がある「おもてなし歩行エリアの形成」を軸に、各施策を展開していくものとする。

表 おもてなし歩行エリア形成プロジェクトの概要

現状課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・歩行空間が鉄道や自動車交通により分断され、駅前の賑わいの範囲が狭い</li><li>・道路（歩道）が狭く、歩行者と自転車が混在し、歩道の混雑や安全性が低下</li><li>・駐輪場所が不足・不便で放置自転車が発生し、歩行環境やまちの景観が悪化</li><li>・荷さばき車両や駐車場への出入車両により、道路混雑や歩行者の安全性低下が発生</li></ul>
ねらい	人が集まる大宮駅を中心に、道路整備や周辺の市街地整備と連携しながら、歩行者や自転車、公共交通を優先する交通体系へ転換し、誰もが安全に、まち歩きを楽しめる時間消費型のまちの実現を図る。
まちづくりの効果	<ul style="list-style-type: none"><li>・駅前の賑わい拡大に伴う商業やイベント等の活性化や、地域全体への回遊性の向上</li><li>・商業ポテンシャルの増加に伴う、市街地更新の機運の高まり</li><li>・環境に配慮したライフスタイルの浸透</li><li>・放置自転車や駐車車両の排除によるまちの景観・安全性の向上</li></ul>

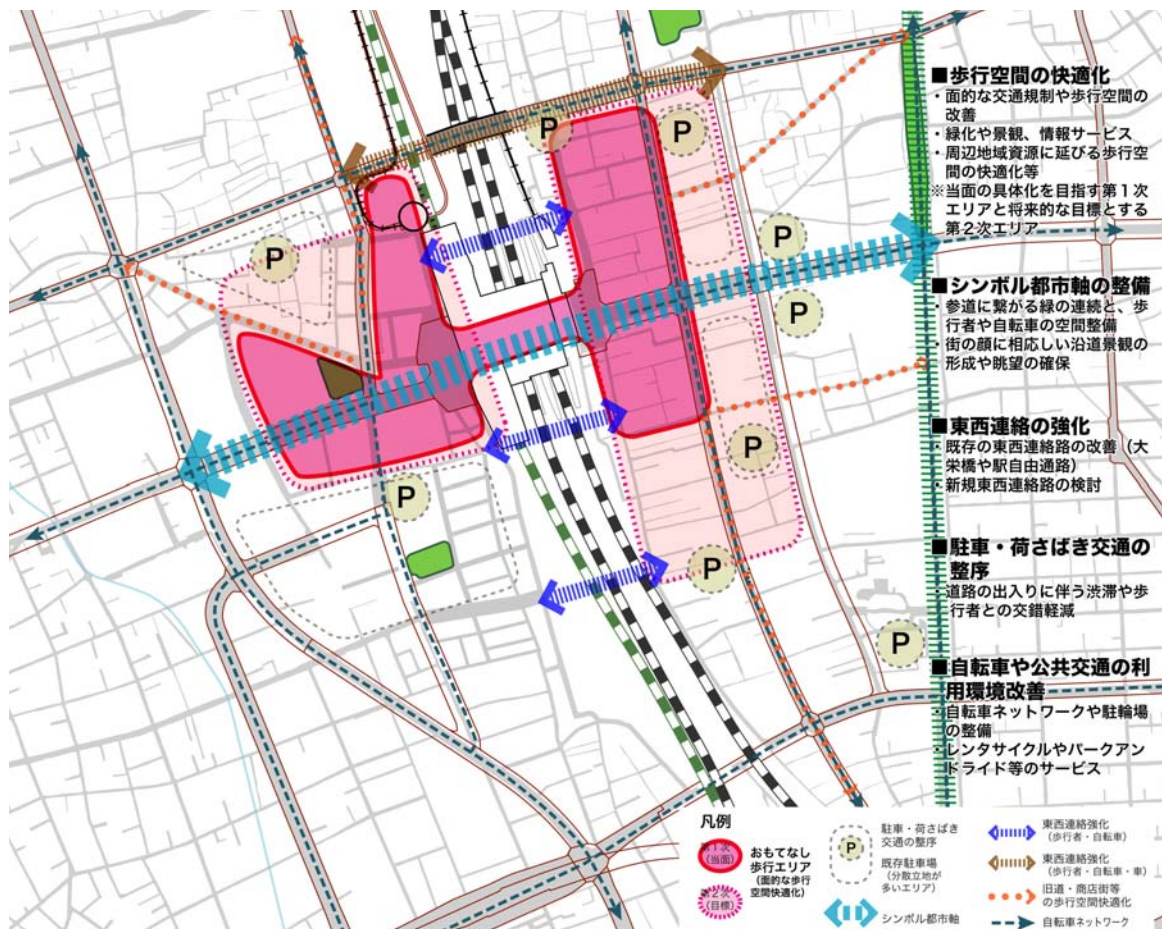
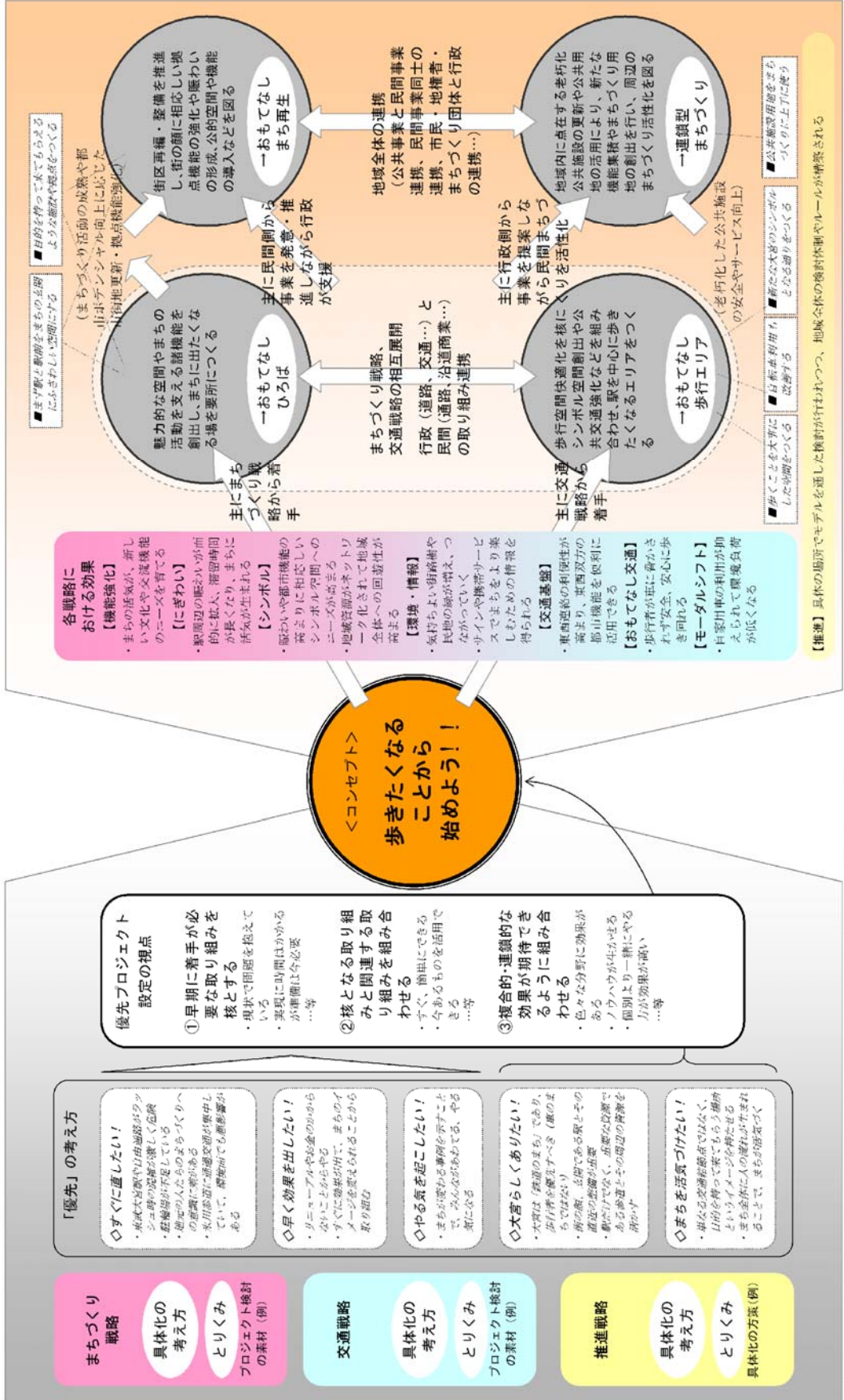


図 おもてなし歩行エリア形成のイメージ  
(具体的場所・内容は来年度以降に確定していく)

優先的に取り組むべきプロジェクト設定の考え方

戦略の展開



斜体文字は、検討素材とした第5回ワークショップの成果よりの抜粋(◇:「優先」の考え方、■:優先したい取り組み)

図 大宮駅周辺地域戦略ビジョンにおける優先プロジェクト

## 4－B－4 大宮駅周辺地域交通戦略のアウトカム指標（案）

交通戦略の4つの目標に対する各施策のイメージを踏まえ、アウトカム指標のたたき台を以下の通り提案する。

これらの指標は、戦略の進行管理やモニタリングに通じるものであり、次年度以降予定されている全市の交通戦略の目標値等の検討結果も踏まえながら、今後、住民も含めた幅広い議論を通じて、妥当性の確認や目標値の設定を行う必要がある。

表 交通戦略の目標とアウトカム指標(案)

目標	アウトカム指標（案）
①東日本の顔にふさわしい都市機能の強化に資する、みちづくり	外周道路及び地区内幹線道路の渋滞長 東日本の主要都市までのアクセス時間 J R 東西横断歩行者数
②駅の利便性を生かした、公共交通を利用しやすい、みちづくり	公共交通間の乗換え移動時間 大宮駅鉄道利用者数 大宮駅発着のバス利用者数 都市間バス・定期観光バスの運行便数
③地域資源を生かした、歩いて楽しい、みちづくり	自動車の通行が抑制されたエリア面積 歩行者・自転車交通量 放置自転車台数 路上駐車台数 荷捌き共同化への参加事業所数 レンタサイクル利用者数 歩行者が溜れるおもてなし広場等の整備面積
④できることから、みんなではじめる、みちづくり	計画策定に関する集会の延べ参加人数